

昭和の南海地震体験談

氏名: 岸本 千鶴子(きしもと ちづこ)
生年月日: 昭和13年1月9日
地震を体験した場所: 由良町・自宅寝室
当時の家族状況: 父、母

本人の希望により写真は
掲載しておりません

1) 地震発生時の状況

当時8歳で自宅寝室にて就寝中、強い揺れに襲われ、目が覚めた。揺れている時に外に出ると危険なので、布団を被って座り込み、揺れが収まるのを待った。両親はすでに起きて、仕事の準備をしていて留守だったが、揺れが収まった後に戻り、「これは津波や。先に江ノ駒のお寺に逃げなあかん」と言って、家族でお寺に避難した。

2) 津波襲来時の状況

暗い時間帯だったので様子は全く分からなかった。子供だったので恐かったという事だけ覚えていてる。

3) 家族の行動・被害

家族全員無事だった。朝方に自宅に戻ったが、家の中がグチャグチャになっていて、いろいろな物がいろいろな所に詰まってしまっている状態だった。床上1m程の所まで濡れた跡があった。地震による被害は無かった。

4) 集落・周囲の被害

従姉妹の子供が亡くなった。手負いして避難中に波に浸かり、子供を離してしまったそう。近所のほとんどは床上浸水した。

5) 地震・津波後の生活

家の中は流れて来た物で一杯だった。片付けながら自宅で生活した。井戸にも流れ物がたくさん入ってしまい、使えなくなった。片付けの手伝いをした。水や食料についてはよく覚えていない。

6) 井次の災害への備え

避難訓練などに参加し、家族と非常時の話をする。持ち出し袋を常備し、すぐ避難できるようにしている。